

(おもな県道)があり、大きな網の目を構成しています。

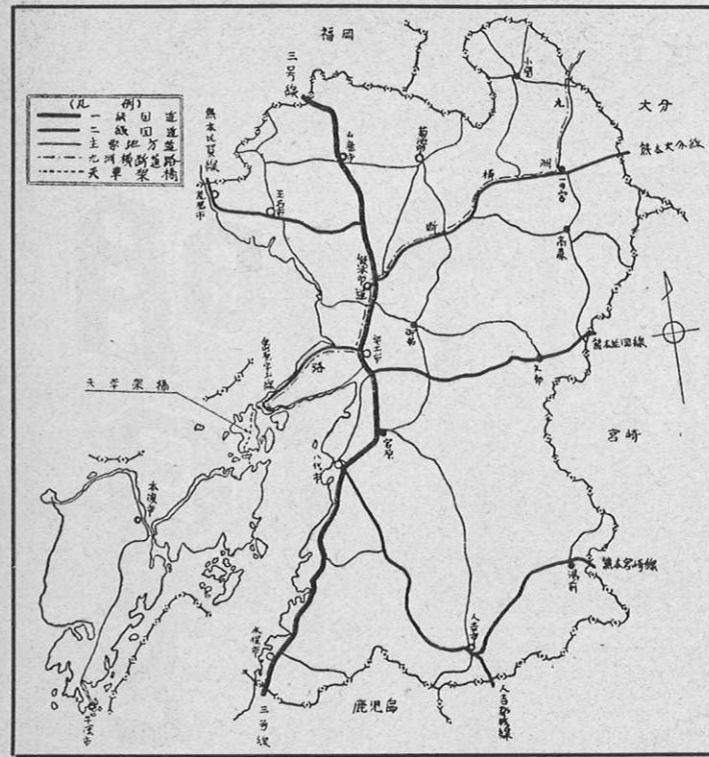
主要地方道は、熊本玉名線等二十九路線で七百五十一軒の延長があります。そしてさらに、この外、小血管にあたる一般地方道(一般県道)が二百十九路線、二千七百六軒もあつて、県内隅々まで延び町や村を結び合せています。その他町村道は一万三千八百九十軒あり、毛細管の横に入りこんでいます。

他県との比較は……★

いま県道以上の集計を取りますと、二百五十五路線三千九百五十五軒となりますが、これは九州では鹿児島県につぐ長さです。

即ち、面積一平方軒あたり本県では五百三十米の長さをもち、九州平均の五百十三米や、全国平均の三百九十七米に比較して、相当上廻つています。しかし、延長の長い割には道路は整備されておりません。全長三千九百五十五軒のうち、自動車のおおれないところが、実に四百八

＜熊本県の道路網＞



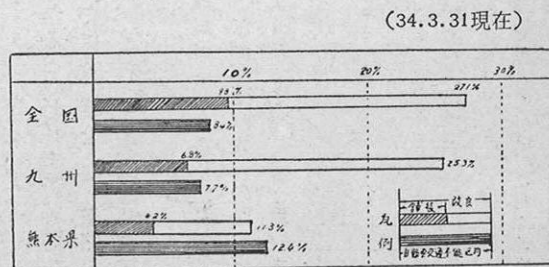
十八軒もあり、又改良延長は四百四十五軒、舗装済区間はわずかに百六十六軒で、表でわかるように全国平均や九州平均にくらべ非常に劣っています。その上、近時交通量の驚異的な増加により、一度改良したところでも車員が狭くなり、二次的改良をやらねばならぬ処が相当ある状態で、これから益々道路事業に重点をおく必要を痛感しています。又橋梁についても全線で、県下三千七十七の橋のうち木橋が千七百七をしめ、水害時の流夫や、車輛の重量化にともなう強度不足等、大きな弱点となつています。

立ちおくれの原因……★

ではどうゆう点に本県の道路事業が他県に比較して立遅れているのか、それにはいろいろの意見があると思ひますが、その主な原因は

- 道路延長が非常に長いから、維持補修に多くの経費がいり、十分に手が回らぬこと。
- 前記道路の大部分が阿蘇火山灰の影響で路盤の土質が悪く、維持が困難であること。
- なお全国的に共通なこととしては、近來自動車の交通量が急増し、さらに大型化、重量化したため、路面の損傷がひどいこと。
- 道路を改良舗装するには一米当り二万一千三百円もかゝるので、早急には計画が進められないこと。
- 等ではないかと考えます。

■ 熊本県の道路の改良や舗装済の長さ及び自動車の通れない道路の長さを全国平均とくらべると……



(その対策—まず道路の整備)

県では三十四年度迄の十二カ年間に約六十四億一千万円をついやして道路の整備に当り、少しづつ遅れを取りもどしてきました。が、なお一層の予算の増額と道路関係者の懸命の努力が待たれます。道路の整備は大きく分けて、道路改良、道路舗装、橋梁整備及び道路の維持管理ですが、このうち、(1)道路改良、舗装、橋梁改築等は主として国の直轄又は国の補助金を主とした公共事業で行われるものが多く、(2)道路の維持管理は単県事業で施行されます。

(1)については、国が三十二年度に道路整備十カ年計画を建て、そのうち三十三年度より三十七年度迄の前期五カ年計画

は現在着々と実施されています。即ち本県の場合、五カ年間に総額百八億円の予算で直轄、補助、街路各事業の整備を推進して行く予定です。

どうやって仕事は進められているか……★

はいえませんが、併し改良舗装等の完備にしたがつて、より以上に効果が上つてくるものと思われま

す。一級国道は改良と同じく建設省がやり、四十二年度までに全線が舗装される予定です。

＜道路改良＞

一級国道は建設省直轄工事として三号線を改良しています。山鹿市附近、熊本一宇土間を終り、愈々熊本市北部国道と三太郎峠の改良に重点をおき三十五年度に完了する予定です。

二級国道は島原宇土線等五路線を継続施行しており、五カ年に二十九軒を改良する予定です。現在五一%の進捗を見えています。

主要地方道は交通量の多いところや車の通らぬ区間など、五カ年で七路線二十一軒を改良します。今年までに十一軒を完了させる予定です。このうちには九州横断道路別府一の宮線等が含まれて

います。一般地方道は現在清和低用線など六路線を工事していますが、十カ年間に資源開発に重要な路線等百五十一軒の改良を終ると全延長の約二十三%が整備できる予定です。

＜道路舗装＞

道路の舗装は改良工事と平行して逐次進められています。三十三年度に二十二

＜進む道路の舗装＞

＜橋梁整備＞

橋梁整備も五カ年計画によつて三十三年度から本年度までに国庫補助及単県事業で九十二橋、延長二軒が永久橋になります。過去にくらべ著しい伸び方をしていますが、なお千七百七橋が木橋のまま、残されている状況です。

一級国道は建設省が十カ年計画で全橋(百五十五橋)を永久橋にする予定です。二級国道も五カ年計画によつて十米以上の木橋は八十%が永久橋に、又十カ年計画では二百四十九橋全部

＜災害がきてもモウ大丈夫、橋は永久橋＞



が整備される予定になっています。主要地方道は五カ年で七〇%が永久橋に、十カ年では六百五橋全橋完了の予定です。

一般地方道も五カ年で二〇%、十カ年で六〇%が永久橋化される計画です。(註：橋長十米以下の橋の整備は改良工事と一緒に施行されます。)

これからの重点事業は……九州地方の資源の開発と産業の発展をはかるため、「九州地方開発促進計画」がよく発足しましたが、その重要部門で